

ディスカバー農山漁村の宝有識者懇談会概要

1. 日 時：平成 29 年 10 月 24 日（火）14：00～14：25
2. 場 所：総理官邸 3 階南会議室
3. 出席者：菅内閣官房長官、齋藤農林水産大臣、梶山内閣府特命担当大臣（地方創生担当）、西村内閣官房副長官、野上内閣官房副長官、古谷内閣官房副長官補、住澤内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）、荒川農村振興局長
林座長、あん委員、今村委員、永島委員、藤井委員、向笠委員、横石委員（欠席：織作委員、田中委員、三國委員）

4. 概 要：

○ 林座長から開会挨拶

- ・地方の特色のある農林水産物、豊かな自然、文化など地方の個性を上手に活かした優良事例を発掘する「ディスカバー農山漁村の宝」は、他の地域の潜在能力を引き出すきっかけを提供するものであり、非常に有意義な取組である。
- ・今回の応募は、前回をはるかに上回る 844 件の応募があり、それぞれの応募内容を見てもユニークな取組が増えており、地方の活性化を感じている。
- ・本日は、選定地区の決定、グランプリ等の選定方法等について、活発に意見交換を行ってまいりたい。

（荒川農村振興局長から、資料に基づき、選定地区並びにグランプリ及び特別賞の選定方法等について説明。その後、委員からいただいた主な御意見は以下のとおり。）

・日本の農山漁村は閉鎖的と言われるが、そんなことはなく、年齢や学歴を問わずオープンで前向きに活動している農山漁村の姿が感じ取れた。また、新たにジビエの賞が創設されたことは本当に嬉しい。農山漁村において、生活、経済、自然など、様々な面で問題となっていたことをプラスのことへと持って行けるのが本当に素晴らしい。

・「ディスカバー農山漁村の宝」の名前のとおり、地域の宝物の発掘発見が進んできたと感じる。PR の仕方が上手くいっている。選んだ我々の方からももっと海外に向けたアピールなど PR していく必要がある。

・農業を支えていく人たちのこれからの将来がどうなるかと今問われていると思う。今年から新規就農した方々と接する機会があったが、秋田では、素人の人たちでも 2 年間補助金を受けながら研修をして農業を学んでいける制度があり、農業を学んでいく若者が増えてきている。こういった形で育っていった人たちが、むらの宝となっていくのではないかな。

・優良事例を日本のブランディングに活用するということもあるが、世界の展示会等へグランプリを受賞された方々が出展するチャンスを提供する機会があれば良いのではないかと。また、農山漁村に関する優良事例選定なので我々審査する側に、もう一人ぐらい農業で実績を出した事業者がいても良いのではないかと。

・昨年選定された地区へと行ってきたが、やはり、選定されたことを糧にして非常に頑張っていた。都会からきた若者達が就農されていたりと、ディスカバー農山漁村の宝の選定が役だっていることを感じた。また、今回ジビエの賞ができたことは大変嬉しく思う。

・今回もたくさんの応募があって本当に良かった。いま地方創生の追い風が吹いていると感じている。現場では、あきらめてしまったところとまだこれから頑張ろうとしているところで完全に分かれている。まだ頑張ろうとしてところは、ほとんどのところが、外から来た人がつくっている追い風を受けている。農村ではこれまで外から来た人をあまり受け入れない風潮があったが、内側の人たちの意識も変わってきて、外から来た人たちを受け入れ始めてきた。こういった変化が応募増加にもつながっているのかなと思う。

・今回の応募件数は 844 件と昨年よりも増加した。これまでの応募から比べると、毎年 100 ずつ増えてきており、これはこの表彰が多くの人から期待されてきたのかなと思う。今回から創設したジビエの賞の名称は「ジビエグルメ賞」とした。色々な案はあったが、最終的に、ジビエというのは美味しいものだと思ってもらうのにちょうど良いのではないかと。

（菅官房長官）

・ジビエというのは、国をあげて対策を練っているところであり、特別賞の創設は良いことだと思う。委員より話があったグランプリを受賞された方々が海外へ行ける、こういうのをすぐに検討していきたい。

（梶山内閣府特命担当大臣（地方創生担当））

・全国どこでも、素材や環境など良いものはたくさんあると思うが、やはり諦めてしまうところは多い。国内の発信をもっとしっかり行っていくことと、選定のメリットとしての海外への発信を行うことは、地方創生にも必ずつながると思う。

○閉会ご発言

（梶山内閣府特命担当大臣（地方創生担当））

・「ディスカバー農山漁村の宝」は、今回で 4 回目の選定となるが、地域の人々の熱意溢れる取組の成果を表彰することは、地方創生の推進に当たって大変意義あるものと認識している。

・本日は、新たな優良事例として 31 地区が選定された。これらの取組は、まさに地方創生の礎となるものであり、選定された優良事例を全国に情報発信し、地域が活性化する好循環を拡大させていくことが重要である。

- ・特に、今回選定された地区の中には、企業や社会福祉法人、NPO 法人、また、農事組合法人といった様々な主体が、高齢化や人口減少に対応するため、新たな農業の担い手となり、また、6次産業化を進めながら、地域活性化に取り組むものが多く見受けられた。

- ・このような取組により地域の所得向上を図ることは、地方創生の推進に大変重要なものである。今般選定されたような優良事例が全国各地で取り組まれることで、地方創生の一層の推進につながっていくことを期待する。

(齋藤農林水産大臣)

- ・「ディスカバー農山漁村の宝」の選定は、今回で4回目となるが、応募件数は、回を重ねるごとに増加し、今回は844件へと更に増加した。

- ・農山漁村の地域資源を活かした取組が、全国各地でわき起こり、誇りをもって取り組まれている姿勢に、期待が増すとともに、この表彰事業の盛り上がりにより明るい未来を感じているところ。

- ・また、有識者委員の皆様におかれては、これら多数の応募に対して、選定の労をとっていただいたことに、感謝を申し上げます。

- ・PRしていくことが大事だと思う。本日選定した31地区は、いずれも、地域の特色を活かした創意工夫あふれる取組で、例えば、地元のシカ肉を活用したジビエバーガーを年間3万個販売する地区や中山間地域にあって年間1万5千人近い外国人旅行者が宿泊する地区など、地域活性化の優良事例であると確信している。

- ・これらは、政府として力を入れて取り組んでいる分野でもあり、有識者懇談会委員の皆様方やマスコミの皆様方には、これまで選定した合計80地区に加えて、今回選定の31地区の取組について情報発信していただき、そして訪れていただくなど、この取組を大いに盛り上げていただきたい。

(菅官房長官)

- ・「ディスカバー農山漁村の宝」有識者懇談会の閉会に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

- ・安倍内閣においては、農業の成長産業化を進め、農山漁村の所得向上を図ることを、「成長戦略」と「地方創生」の重要な柱の一つと位置付けている。

- ・今回の総選挙においても、安倍内閣のそうした改革姿勢を訴えてきたところだが、全国の各地域の方々の意見に耳を傾けつつ、今後とも地域における様々な取組の支援に全力を尽くす覚悟。

- ・「ディスカバー農山漁村の宝」のこれまでの選定地区をみると、選定を機に、知名度が向上し、地元の商品の売上や観光客が増えたなどの成果がみられ、地域の活性化や所得向上につながっている。

- ・今回選定された地区の取組も、魅力的なものばかり。これまで選定された地区同様に、選定を機に更なる成果が得られるとともに、これらの優良事例が全国に広が

っていくことを期待している。

○結果及び今後の予定

- ・事務局提案のとおり、選定地区並びにグランプリ及び特別賞の選定方法等について了承された。
- ・11月下旬頃開催予定の第3回有識者懇談会でグランプリ及び特別賞を決定するほか、交流会において、グランプリ及び特別賞の発表を実施。

(以 上)